

校長室だより No.9

2018年 6月 18日

柏市立酒井根東小学校

<http://www.sakainee-e.kashiwa.ed.jp/>

校長 梅津健志

「目標に向け 友達と共に やりぬく子」の姿を6年生にみる

昨年度からやりぬく子の育成を重点目標に掲げて取り組んでおりますが、今年は単にやりぬく子だけでなく、表題のように目標と持ち、友達と一緒にという具体的な姿を加えました。

学校の教育目標は、「あるけれど誰も知らないよ」というのが一般的な姿だったと思いますが、私は設定した目標を実際に生かす学校経営をしていきたいと考えております。

その姿の一端が6年生の姿に見られますので、ご紹介をしながら、6年生の取り組みへのご理解とご協力を深めてまいりたいと考え、今回の校長室だよりをつづります。

6年生の最後の授業は、「卒業式」です。1年間1100有余時間、6年間5800有余時間の最終の1時間が卒業式と位置づけています。

今年の6年生は、4月の学年スタートと同時に、卒業式実行委員会が組織されました。1年のゴールとなる卒業式をどういう姿で成し遂げるか、つまり「目標をどう設定するか」からスタートしたのです。各クラスで卒業式に実現したい自分たちの姿を話し合い、それを持ち寄って実行委員会で話し合い、次のような2つの姿で卒業式を成し遂げようと決まり、6年生の廊下に掲示されています。

○最後の授業に満足できる態度で臨む ○成長した姿を見せて感謝の気持ちを伝える

満足できる態度とはどういう姿か、それが成長した姿ということになるのでしょうか。

その際、卒業式の服装についても話し合われ、近年増加してきた「和装・袴姿」は、自分たちの最後の授業の姿としてふさわしいかどうか、議論されました。結果として普段着慣れず締め付けにより具合が悪くなったり、力を発揮するためには逆のリスクを抱えたりすることが予想される「和装」は着ないようにすることが決まりました。

ある学校では、校長や先生が一方向的に禁止とする学校もありますが、私は、目標に照らして子供たちが服装の意味を問い、その上で決めていくことに大きな意義があると考えています。

この、卒業式の目標を設定した上で、先日の運動会の目標設定もあり、子供たちが議論しながら運動会を作っていました。運動会の保護者感想には、フラッグへの取り組みに賛否がありましたが、自分たちで動きを考え、それを完成するための練習計画をつくり、練習した上で、当日の姿となりました。親子レースの内容や取り札も子供たちが考え、全部自分たちで作りました。応援団でも、いつ、どれだけ、練習をするのかを、応援団のメンバーで話し合い、自分たちで決めて取り組みました。

大人の目からは物足りなさがあったかもしれませんが、私は、やってみて、失敗したらそこから学んで、次に成功できるようにやり直せばよい、と先生方に言っています。学校は失敗を許すところなのです。失敗して、次に失敗しないようにやり直しがたくさんできるのが学校の役割であり、そういう時間の保証が大切だと考えています。

最近の6年生の教室では、「わからない」という子にわかる子が教えている姿をよく見るようになりました。わからないと言えるようになってきたことをとてもうれしく思っています。子供同士が教え合うことが、わからない子もわかる子も双方の理解が深まるともよい方法です。この姿が自然にみられるようになってきていることに期待をし、他の学年にも広がるように進めています。

6年生は9月の修学旅行に向けて、また成長の時を過ごしていきます。6年生の先生には、テーマは「自然と歴史」、キーワードは「選択」と伝え、知られざる日光の秘密を少し教えました。先日下見に出かけた担任たちは、日光の自然と歴史の深さにちょっと感動して帰ってきました。この教師たちの感動が、子供が感動する授業を創ります。子供たちと一緒にどんな修学旅行を計画していくのか・・・HPやたよりでレポートをしていきます。